

保護者との建設的なコミュニケーション

～保育者の専門性としての対話力の向上を目指して～

【大阪府私立幼稚園連盟 第18次プロジェクトチーム】

暁幼稚園・大阪府私立幼稚園連盟教育研究所所長 原史臣

槇塚幼稚園 福島みどり

志紀学園幼稚園 御喜田知子

中央なにわ幼稚園・大阪キリスト教短期大学非常勤講師 三宅久美子

1. 保育者が「困る」保護者の要望

- 1) 保護者の要望の現状を把握するため参加者が実際に保護者から求められ、返答に困った要望をKJ法を使って「対応できること」「どちらとも言えないこと(ケースバイケース)」「対応できないこと」に分類し図式化する。⇒ 保育者の視点から見ると、保護者の自分勝手に思える要望が多々あった。
- 2) 次に視点を変え保護者の立場で考えてみる。⇒ 保護者の要望が単に自分勝手なものではなく、保護者の抱えているものやその生活背景から生じていることが見えてきた。

2. 保護者との建設的なコミュニケーションのために

1) 保護者とのパートナーシップ

「対話」…はじめから相手と自分との違いがあることが前提

- ・保育者は保護者との立場の違いを認識し、傾聴、共感するだけでなく、自分の意見考え、気持ちを素直にその場にふさわしい形で伝えていくことも必要ではないか。

※アサーション…自分も相手も大切に自己表現(平木, 1996)

自分の考え、欲求、気持ちなどを率直に、正直に、その場の状況にあった適切な方法で述べること。

2) 保育者に必要なもの

- ①受信
- ②発信
- ③心構え

3) アクション・リサーチから学んだこと

3. 質問紙調査から見えてきたもの

1) 保護者の要求の傾向

2) 自他尊重の自己表現と園内での役割分担の必要性

4. 保護者に対する建設的なコミュニケーション関係をつくりあげていくための保育者の課題

- ① 保護者と保育者の子育てにおける立場の違いの認識
- ② 保護者対応における園内の役割分担
- ③ 「対話」のできる環境づくり

5. 今回のプロジェクトについて ～ 参加者の感想より ～

「豊かな学びの共同体」